

「何度でも語る 歴史の事実 はこれです」

再び
戦争の道を
歩まない
ために



安倍首相も橋下大阪市長も言います。「『慰安婦』の強制連行を示す証拠はない」と。これは、日本軍が創り出した「慰安婦」制度の歴史を認めたくないからです。しかし、多くの関連資料や証言が何よりの証拠として存在しています。「多くの女性が、連れて行かれた戦場で自由を奪われ、性奴隷として人権を蹂躪され続けたことを看過できない」と国際社会からも誠実な対応を求められていますが、日本政府は無視し続けています。河野談話の見直しを公言している安倍政権も橋下市長も、今年の夏の参議院選挙で勝利し、憲法改悪や戦争のできる国づくりをめざしているからです。

今、本当に大切にしたいのは、平和や人権が尊重される社会です。「負の歴史」とも向き合う勇気です。

このたび、「慰安婦」被害者が未来の世代に託したい思いに押されて、韓国から来日されます。すでに高齢で、日々病と闘いながらも「二度とこのような被害者を出さないで」「戦争はしないで」と願いつけておられます。

中国・関西地方の各地で、歴史の事実を証言し、平和の大切さを訴えられます。ぜひ聴きとってください。今こそ胸に刻みましょう。そして、日本政府に公式謝罪と賠償をさせましょう。

来日予定



キム ボットン
金福童 ハルモニ



キル ウオノク
吉元玉 ハルモニ

講演

被害者の声に向きあって
記録し、記憶し、未来へ語り継ぐ責任

吉見 義明さん 中央大学教授



ユン ミヒャン 韓国挺身隊問題対策協議会
尹 美香さん 共同代表



うた

イ チョンミ
李 政美さん



アン ソンミン
安 聖民さん



2013年

5月25日(土)

12:30 開場 / 13:00 開始

ドーンセンター ホール

地下鉄・京阪「天満橋」下車すぐ【裏に地図】

主催：日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
協賛：日本軍「慰安婦」問題解決全国行動
Tel:080-6185-9995 E-mail:info@ianfu-kansai-net.org
http://www.ianfu-kansai-net.org

資料代
一般 800円
学生 400円

金 福童 (キム・ボットン) ハルモニ

1926年、慶尚南道梁山生まれ。1941年、村の区長と日本人が来て、挺身隊として3年間軍服工場で働くと言ったのに、連れて行かれたのは中国広東の慰安所だった。監視がいて逃げ出すことはできず、ベニヤ板で仕切られたベッドがひとつあるだけの粗末な部屋で、暴力を日常的に受けながら「慰安婦」としての生活を強いられた。1日に15人程度、週末は50人を超える兵隊を相手にさせられた。その後、香港、シンガポール、スマトラ、インドネシア、マレーシア、ジャワへと、軍隊に連れられ移動を続けた。

1946年帰国。体をひどく壊していたが、1年後元気になった頃、母親が結婚するよう懇願するので、仕方なく「慰安婦」だった過去を告白した。そのため、母は心臓病になった。

その後、釜山で結婚。長い間寺に通って子どもを授かるよう祈願したができなかつたし、「慰安婦」だったことを隠し通してきたので、夫に申し訳なく思っている。

1981年夫と死別し、その後被害申告をした。

吉 元玉 (キル・ウォノク) ハルモニ

1928年、平安北道生まれ(現在の朝鮮民主主義人民共和国)。1940年、13歳の時、「工場で稼がせてやる」と騙され、親にも知らせず付いて行った。まだ生理もなかったのに、ハルピンの慰安所で気絶するほどの暴力を受けながら「慰安婦」としての生活を強いられた。性病治療と言われた手術で子宮を取られたが治らなかつたので、1941年、家に帰された。

1942年、町で偶然、最初に騙した男に出会った。震えあがっていると捕まって、再び中国の石家荘の慰安所に連行された。逃げることもできず、「死ぬことになれば死ぬ、生きられれば生きる」とあきらめて過ごす日々だった。

1945年、ようやく帰国できたがひどい格好でお金もなく、故郷に帰ることもできなかつた。自分のことを知っている人に会ったら恥ずかしいと、1人でひっそり暮らした。

1958年、男の子を養子に迎えた。1998年、テレビで水曜デモを観ながら嘆いている姿を家族に見られ、家族も知ることとなり、被害申告を行った。

現在、二人とも、水曜デモに先頭に立って参加している。また、世界各国で証言を行い、平和と人権を守る大切さを訴えながら、2012年3月、二人で「ナビ基金」を立ちあげ、世界の戦時性暴力被害で苦しむ女性のために支援活動も行っている。

吉見 義明 さん

中央大学教授 1945年山口県生まれ、東京大学文学部卒業後、現在中央大学商学部教授。専攻日本近現代史。1991年、防衛庁防衛関係図書館で、政府が慰安所の設置、運営に関与していたことを示す資料を発見。日本軍「慰安婦」問題の真実を追究する第一人者。主著に『従軍慰安婦』(岩波新書)、『従軍慰安婦資料集』(大槻書店)、『日本軍「慰安婦」制度とは何か』(岩波ブックレット)など多数。

尹 美香 (ユン・ミヒャン) さん

韓国挺身隊問題対策協議会(挺対協)常任代表 1992年1月から挺対協スタッフとして活動。韓国で日本軍「慰安婦」被害者の支援をしながら、毎週水曜日にはソウルの日本大使館前で水曜デモを開催し、問題解決のために国際的にも活躍している。現在、「戦争と女性の人権博物館」館長も務める。

李 政美 (イ・ジョンミ) さん

東京葛飾出身の在日2世。1994年、屋久島に住む山尾三省の詩『祈り』と出会い自然に曲が生まれたことを契機に作詞作曲を始め、以来、オリジナル曲の他、朝鮮民謡をはじめとして様々なジャンルの歌を歌い、日本全国を巡っている。これまで何度も日本軍「慰安婦」被害者支援のためのコンサートを開催し、韓国の「戦争と女性の人権博物館」オープンセレモニーでも歌を披露するなど、日本軍「慰安婦」問題に歌を通じて関わり続けている。

安 聖民 (アン・ソンミン) さん

大阪生野出身の在日3世。重要無形文化財準技能保有者候補・南海星に師事し、パンソリを習得する。2006年には「水宮歌」完唱公演。2008年には李政美・趙寿玉と共に、「戦争と女性の人権博物館」支援のための「つながる歌つながる舞つながるいのち」コンサートに出演した。在日で唯一のパンソリ奏者として全国で精力的にパンソリ公演を行うほか、朝鮮民謡の歌い手としても注目を集めている。

アクセス

ドーンセンター

(大阪府立男女共同参画・青少年センター)



・京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通して1番出口より東へ約350m。

・地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。

日本軍「慰安婦」被害者証言キャンペーン2013 in なら
何度でも語る 歴史の事実はこちらです
再び戦争への道を歩まないために

5月26日(日)

12:30 開場 / 13:00 開始

奈良県人権センター
(旧 奈良県解放センター)

2階大研修室

近鉄奈良駅からバス約10分、JR奈良駅からバス約5分「大安寺バス停」下車
バス停から南200m 徒歩3分

共催 日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク アイ女性会議なら
多文化共生フォーラム奈良 部落解放同盟奈良県連合会女性部
協賛: 日本軍「慰安婦」問題解決全国行動
お問い合わせ 080-6185-9995

講演 吉見 義明さん(中央大学教授)
尹 美香(ユン・ミヒャン)さん
(韓国挺身隊問題対策協議会共同代表)
ゲスト キム・ボットンハルモニ(予定)
キル・ウォノクハルモニ(予定)

資料代
一般 800円
学生 400円